

発行所：公益社団法人 日本鉄道広告協会
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1丁目5番5号 JR恵比寿ビル10階
TEL：03-5791-1808 FAX：03-3443-1616 メールアドレス：information@j-jafra.jp
URL：<https://j-jafra.jp/>

巻頭レポート

名古屋デジタルサイネージの、さらなる可能性について

独自の都市圏を形成する名古屋

名古屋は、日本の中部地方における経済・文化の拠点として独自の都市圏を形成しています。とりわけ名古屋駅はJR・地下鉄・名鉄・近鉄など多くの路線が乗り入れ、その乗降客数も都合100万人を超えるなど、全国でも有数の利用者数を誇っています。

またトヨタ自動車をはじめとする製造業や、地元密着型の商業施設、独自の食文化など、多彩な消費環境が広がるこの都市は、地元回帰志向が強いこともあり、全国の主要な都市とは異なる地域特化型の発展を遂げています。近年、その中心にあるのがデジタルサイネージを活用した広告戦略です。

従来のポスターなど紙媒体では、印刷費用やコストなども制約などもあり、また一度決定した広告内容を途中で変更することや、同時に複数内容の訴求をすることは容易ではありませんでした。

しかし、デジタルサイネージの導入により、比較的容易に内容を更新で

きるため、通勤・通学者や観光客の属性や時間帯に応じて最適化したメッセージを届けることが可能となりました。

名古屋駅を中心とする交通拠点に設置されたデジタルサイネージは、従来の広告看板からの転用に留まらず、都市の情報発信ハブとしての役割をも果たしています。

特に名古屋駅の主要なデジタルサイネージは、コロナ明けから稼働率が顕著に伸びており、需要に対して供給が追い付いていないかのような状態が続き、広告枠の取得も容易ではない状況が続いております。

名古屋市内各駅の主要な場所に設置されているデジタルサイネージは、設置の態様・規格とも汎用



名古屋駅桜橋口デジタルフラッグ

株式会社近宣 名古屋支社
名古屋支社長
近山 友一

性の高いものが多く、特に名古屋駅の
全国展開のプロモーションを展開する
際に利用しやすいものとなっています。
その一方で周辺駅などは、ソースとし
て地域密着型の施策を主とするものも
多く見られ、地元店舗や季節のイベン
トなど告知など棲み分けがなされてお
り、それらは利用者に親近感を与える
だけでなく、地域ブランドの認知拡大
にも利用されています。



名古屋デジタルスクエア

効果的なサイネージの活用

さらにデジタルサイネージは機能的
にはデータドリブン型マーケティング
とも親和性が高く、規制緩和や運用に
よっては今後さらなる広告効果の最大
化が期待できます。駅周辺の来訪者属
性や動線データなどを活用することで、
特定の時間帯やターゲット層に向けた
広告配信が可能です。たとえば、平日
の通勤時間帯にはビジネス関連のサー
ビス広告、休日や祝日には観光情報や
地域イベントの告知を行うといった時



サイネージとのタイアップ

間帯別・ターゲット別の戦略が実現で
きます。名古屋では、主要な箇所の多
くにデジタルサイネージが設置されて
おり、さらに利用者データなどの解析
を活用することで、設置個所や時間
による訴求対象の違いを考慮した広告展
開が組みやすくなっております。

また今日では定番ではありませんが、
デジタルサイネージはオンラインと
の統合により、広告展開の幅をさらに
広げています。駅に設置されているデ
ジタルサイネージは一部を除き、多く
がQRコードの利用が可能となっ
ています。それをスマホで読み取るこ
とで、Webサイトや動画コンテンツな
どへの誘導が可能です。デジタルサイ
ネージの各特性を活かし、場所や時間
などで放映内容を変えることで、誘導
先を動的に変化させることも可能です。
これらが名古屋の主要な場所の多くに
に、身近な動線に多数存在することで、
単なる駅広告というだけにとどまらず、
利用者との動的コミュニケーションの
入り口としての役割を果たしています。

JR名古屋駅を中心とする交通拠点
との連携は、デジタルサイネージ活用
の大きなポイントです。駅構内の大型
スクリーンは、通勤・通学者だけにな
く観光客や出張者にも情報を届けるこ
とができ、地域と全国、さらに海外へ
の発信力を持っています。



名古屋エクスプレスビジョン

シリーズ・アド・ビジョン名古屋に代表される連続型のサイネージは、構内を移動する人々にも漏らさず情報を供給することができます。しかもデジタルフラッグなど一部を除き目線の高さに設置されているため、QRコードなどの利用も容易です。

近年はAIやデータ解析技術の進化により、デジタルサイネージ広告はさらに高度化する可能性を持っています。運用にあたりクリアすべき問題はありますが、技術的には視認者数や属性の計測、滞留時間の分析などを通じて、広告内容をリアルタイムで最適化することも可能となり、より精度の高いターゲット広告が実現できる可能性があります。



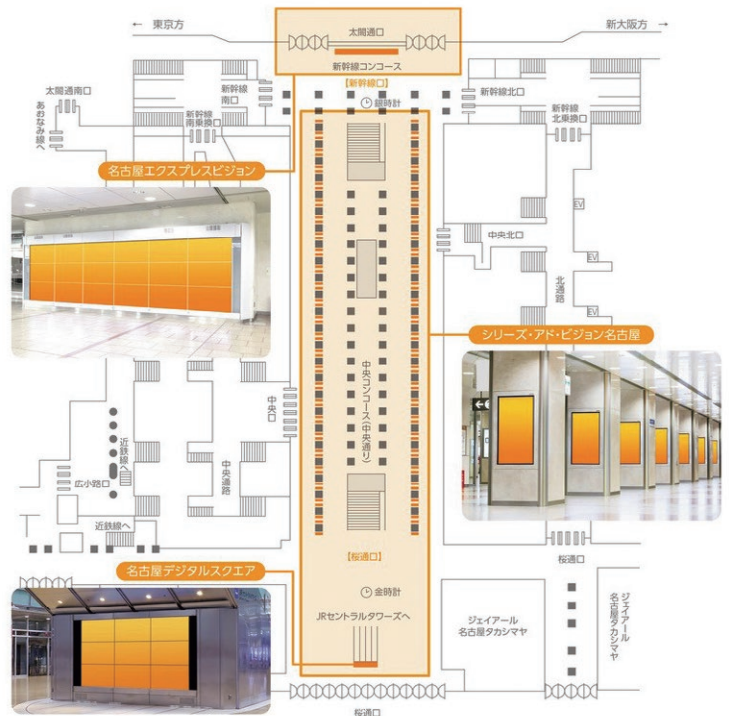
シリーズ・アド・ビジョン名古屋



J・AD ビジョン central 名古屋駅地下通路



名古屋駅ツインビジョン桜通口



名古屋駅中央コンコースサイネージセット掲出位置図

更なる進化を期待

2026年には第20回アジア競技大会が名古屋で開催されます。それに合わせ、各施設のリニューアル計画なども進んできております。

中でも金山総合駅では、中部地区では例を見ない大規模なデジタルサイネージが登場する予定となっております。

主要な場所・身近な動線に多数のデジタルサイネージが設置されていることに加え、例を見ない大規模なデジタルサイネージの登場は、国内のみならず世界に向けて名古屋の存在価値を高めるものと思われます。

ちなみに「金山総合駅」は、どのような駅か存じでしょうか？恐らく全国の方々には馴染みは薄いかもしれません。

しかし実は、愛知県では名古屋駅に次ぐ乗降客数を誇るターミナル駅（総合駅）です。

アジア競技大会を意識したタイミングで大規模なデジタルサイネージが登場することは、愛知県No.2の駅であった金山総合駅を全国に知らしめる良いキッカケとなると思いますし、また個人的にもそうあってほしいと願っております。

「いっしょに」ポスターキャンペーンにご協力ありがとうございました

JAFRAでは、「鉄道利用促進による鉄道広告活性化策の実施」を計画し、9月1日から首都圏で展開いたしました。

コロナ禍以降、鉄道需要はインバウンドの増加もあり、復調の兆しが見えつつあるものの、業務のDX化や働き方改革の推進から日々の鉄道利用の在り方に変化が生まれました。

それとともに、少子高齢化、人口減少要因も加わり鉄道需要の完全復活までには更なる困難が伴うと考えられています。一方、鉄道広告についても鉄道利用者数の減少やスマートフォン利用の増大からクライアアントより軽視されがちな影響もあって、媒体毎の差は顕著となり、鉄道利用

と鉄道広告、両者の関係性を活かした施策が望まれるところです。

当協会としては、社会インフラである鉄道ネットワークと高い視認性を持つ鉄道広告の果たすべき役割や公益性、社会貢献等は益々重要性を増しており、鉄道広告の認知度や付加価値の向上のため、当該企画を実施いたしました。また、動画を作成しYouTubeでもキャンペーンの情報を発信いたしました。こちら、併せてご覧ください。
(https://youtu.be/jxQJe_350X4)

今回の企画を成功させるにあたり、あらためて多くの方々にご理解とご協力をいただいたことに心から感謝いたします。これからも、鉄道利用の魅力をアピールすることで利用促進を図り、ひいては鉄道広告の活性化のためにも、当該鉄道のみならず、横断的に一体となつて他社のポスターを相互に掲出し、広く首都圏の鉄道ネットワークを認識していただくよう努めてまいります。



小田急電鉄・新宿駅



京王電鉄・下北沢駅



京成電鉄・日暮里駅



京急電鉄・金沢文庫駅



相模鉄道・横浜駅

鉄道でしか味わえない魅力的な「ワンシーン」を発信し、鉄道の利用を促進する

コンセプト

レールに乗って窓の外を眺める。首都圏には独特の顔がある。日常と非日常が背中合わせだ。車窓のフレームを通してみるといつもと違ったドラマを感じるのにはなぜだろう。

コピー

「ここどこ」レールに乗って、車窓を眺めているとまるで映画化アニメの主人公になったよう



西武鉄道・石神井公園駅



東急電鉄・武蔵新田駅

クリエイティブの方向性

一つの列車の「走行シーン」と「車窓シーン」を同時に映しだし、シネマのような上質な世界観を創出。様々なワンシーンを共通フォーマット（走行シーン+車窓シーン）で、発信することにより脳裏に蓄積していく

鉄道利用促進が鉄道広告の発展につながる・たくさん乗ってもらうこと。それには鉄道の魅力を伝えること・「乗りたくなる」を刺激する（インバウンドにも日本の鉄道の利便性や快適性は人気）。鉄道広告が鉄道利用促進を刺激します

企画ポイント

他社路線も横断的に掲出。利用駅の鉄道会社だけではなく、普段利用しない他社のポスターも並べて掲出し、できるだけ日常の中にある鉄道を舞台に表現することが新鮮さを醸し出す。特急や観光電車に特化しないことで、鉄道の楽しみ方をもっと身近なものとする。鉄道各社が一体となって取り組むことは、鉄道利用者の共感も呼び起こし、鉄道全体の好印象を醸成する。

（企画の詳細は、JAFRA NEWS vol.89 4月号に掲載
https://j-jafra.jp/wp-content/uploads/2025/07/JAFRANEWS_89.pdf）



東京メトロ・新宿三丁目駅



東日本旅客鉄道・新橋駅



東武鉄道・川越駅

デジタルデトックスからの気づき

理事 有村 早苗 (南海電気鉄道株式会社)

中学2年生の長女が、校則違反でスマホを学校に一週間没収された。文化祭の日、学校からの帰り道、つい気が緩んでしまい、本来は自宅へ学校の最寄り駅までしか使ってはいけないスマホを出して触っているところを、たまたま通りがかった先生に見つかったそうだ。

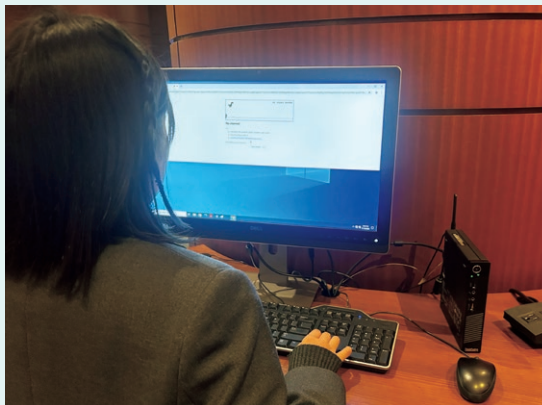
没収された当日は「どうしよう」「暇すぎる」と嘆いていたけれど、「面白いことが起きた。携帯がない生活は、彼女にとって未知の世界だった。これまで、空いた時間はすべてスマホに吸い込まれていた。LINE、SNS、ゲーム。だけど、手元にそれがなくなると、やることがない。ちょうどテスト前期間だったこともあり、「じゃあ、勉強でもするか」と、彼女は机に向かった。

そして一週間後、無事に携帯は返ってきたものの、テストの結果はなんと学年1位。本人も驚いていたけれど、それ以上に驚いたのは私だった。スマホがないだけで、こんなにも集中できるのかと。

常に情報にさらされていた日々から少し離れて、自分のペースで過ごせたことで、ただ目の前のことに集中できる時間が、彼女の中に静かな力を生んだのだと思う。

この一件で、娘は「お母さんに、定期的に携帯を没収してもらおうかな」と言い出した。自分でも、スマホがあるとテスト勉強の合間でもつい手が伸びてしまい、気づ

いたら長時間触っていた、ということに改めて気づかされたらしい。自分で自分を律するのは難しいから、強制的に距離を置く時間が必要だと。あとは1位を取ったからには次回からも上位を目指したいという良い欲も出てきたのだろう。



PCを使って勉強をする娘

その言葉を聞いて、私はハッとしました。子どもだけじゃない。大人だって同じだ。仕事のメールが気になって、休日でもスマホをちらちら見ってしまう。プライベートと仕事の境目が曖昧になって、心が休まる時間が減っている。

私は、交通広告媒体の担当として、デジタルサイネージの導入や

活用を推進する仕事をしている。街のあちこちに設置されたスクリーンが、情報を届け、空間を彩り、人の動きを変える力を持っていることを日々実感している。デジタルの力は、正しく使えば人の暮らしを豊かにする。けれど、娘の一件を通して、ふと考えた。私たちはその「豊かさ」を、どこで、どう届けるべきなのか。

スマホやサイネージのようなデジタルメディアは、便利さや効率だけでなく、時には人と人との距離を縮めたり、街の風景に新しいリズムを生み出したりすることもできる。だからこそ、ただ目を引くだけではなく、心に余白を生むような使い方を模索したい。情報を詰め込むのではなく、ふと立ち止まるきっかけになるような、そんな価値の届け方があってもいいと思う。

娘の「自主的没収宣言」は、私にとっても大きな気づきだった。たまにはスマホを置いて、風の音や家族の声に耳を傾ける時間を持つこと。それが、心の余白をつくる第一歩なのかもしれない。そしてその余白こそが、デジタルの価値をより深く感じるための土壌になるのではないかと思う。

今回の広場もお楽しみに。

北海道支部

媒体視察研修をしました

北海道支部（滝沢健支部長）では、10月15日（水）～17日（金）の3日間、博多駅・広島駅及び商業施設の見学を実施しました。会員24社中7社10名の参加となりました。

博多駅では、音声付媒体や連続性のあるデジタルサイネージ媒体やイベントスペースに設置された大型媒体の見学をしました。

広島駅では、完成された路面電車のホームを見学し、JR西日本コミュニケーションズ様による説明を受けました。JRや商業施設からのアクセスが好評であることや、工事完成に伴い、媒体も時流に合わせて変化させている旨の説明を受け、現在、工事中の札幌駅へ情報提供をしていきたいと感じました。



博多駅でサイネージの説明を受ける

首都圏支部

交通広告実務研修を開催しました

首都圏支部（石川明彦支部長）は、10月31日（金）、ジェイアール東日本企画10F大会議室において、交通広告に関する実務の基礎、各種知識の習得を目的として、新入社員等交通広告ビジネス経験の浅い社員を対象とする「交通広告実務研修」を例年同様に開催しました。会員社以外にも含め25社43名の皆さまが参加され、熱心に講義に耳を傾けていました。

開催日：10月31日（金）
10時00分～15時30分

カリキュラムと講師（敬称略）

・安全研修 意匠掲出撤去作業における安全対策に関する講義

講師：加藤宏幸 JR東日本メディア株式会社

・広告展開事例研修 交通広告の展開事例に関する講義

講師：吉田勝広 一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム

・ビジネス概論 交通広告の概要と実務に関する講義

講師：古川義夫 株式会社ジェイアール東日本企画

・掲出基準研修 交通広告の倫理綱領・掲出基準に関する講義

講師：寺田剛 株式会社ジェイアール東日本企画



講師の吉田勝広氏による熱のこもった講義

中部支部

媒体視察研修を実施しました

中部支部（佐藤一哉支部長）では、媒体視察研修を実施しました。

日時：9月4日（木）～5日（金）

場所：淡路島／大阪・関西万博
参加者：18名

盛り上がりを見せた大阪・関西万博会場などを視察し、大変有意義な研修となりました。

近畿・中国・北陸支部

実務研修を開催しました

近畿・中国・北陸支部（伊藤義彦支部長）では、9月26日（金）に、オンラインで交通広告実務研修を開催しました。当日は、オンラインから27社97名の参加があり多くの会員社の皆さまと最新の情報を共有することができました。



講師の野村雄一氏

詳細は次のとおりです。

日時：9月26日（金）
14時00分～15時30分

講師：株式会社JR西日本コミュニケーションズ中国支社 野村雄一氏
テーマ：広島駅リニューアルによる媒体開発について



広島駅ビルリニューアルによる媒体開発について

株式会社 JR西日本コミュニケーションズ

オンラインにて情報を共有

四国支部

媒体視察研修を実施しました

四国支部（阿部徳章支部長）では、次のとおり研修会を実施しました。

日時 2025年11月6日（木）8日（土）
場所 韓国（ソウル市内）
目的 ソウル駅（旧駅及び新駅）・ソウル市内の広告媒体視察
参加者 支部会員7社10名
概要

LEDビジョン広告化が進んでいる韓国にて広告媒体視察研修会を実施し、ソウル駅（旧駅及び新駅）・ソウル市内の広告媒体視察を行いました。支部会員同士で、活発な意見および情報交換を行い、大変有意義な研修となりました。



ソウル駅(新駅)



ソウル駅(新駅)で集合写真



ソウル駅(旧駅)



ソウル市内にて

調査研究委員会

調査研究委員会（栗原圭一委員長）では、11月19日（水）に「e-販促データシステム企画編集会議」を開催しました。6月に実施した講習会参加者および9月に実施した利用者を対象としたアンケート調査結果をふまえて、今年度の活動内容の振り返りと次年度に向けた活動方針と内容について、データシステムの利用者の拡大とより一層の利便性の向上に向

委員会便り

けて取り組んでいくことを確認しました。
〈講習会参加者アンケート〉
・約95%の方が、「業務上、参考になった」と回答。
・周辺施設の情報は、AIに聞いても不完全な情報が出てくるので重宝しているという意見もあった。
〈利用者アンケート〉
・約65%の方が月1回以上は利用と回答。
・多くの方はプランニングの資料作成の際、補強データとして、乗降人員、周辺施設情報を取得している。

事務局からのお知らせ

2026年広告界合同年賀会のご案内
毎年恒例の年賀会を次の予定で開催いたします。
日時・2026年1月7日（水）
15時30分～17時
会場・帝国ホテル本館2階孔雀の間
会費・1万円
年始のお忙しい時間ではございますが、多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

編集後記

2025年シーズン最後のプロ野球を観戦してきました。試合はもちろん、皆さんが着ている推しのユニフォームが、バラエティーに富んでいて見ていて楽しかったです。出場選手のみならず、ICHIRO 51、BIG BOSS 1、など（分からない方ごめんなさい）、今では手に入らないものを着用している方も多く、試合の応援だけではなく、ファッション交流の場なんだと感じました。皆さまが推し活動する時の、「キメ」ファッション教えてください。2025年もご協力ありがとうございました。すばらしい2026年をお迎えください。



●メールと写真、ご意見、ご感想はこちらへどうぞ。 information@j-jafra.jp

●会員社の代表者、他が変更になった場合は、ホームページ(<https://j-jafra.jp>)の「各種届出書類」に変更届がありますので、ご記入の上、事務局宛にお送り下さい。ご協力をお願いします。



●次号Vol.94は2月1日発行予定です。お楽しみに。